

学校自己評価報告書

学校教育目標 一人一人を見つめ、自立と社会参加をめざし、たくましい生活力を育てる。							
項目	重点	中長期経営目標	短期経営目標	評価項目 (具体的な計画)	達成状況	評定	改善方策
の充実	自立と社会参加を目指した「主体的・対話的で深い学び」	○「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、「つきたい力を明確にした授業づくり」に焦点を当てた指導・支援のあり方の研究	○「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善	○授業づくり検討会の実施 ○学びについての一覧表や授業参観シートを活用した授業改善に取り組む。	○「主体的」「対話的」で「深い」学びそれぞれについて教職員間で共通理解を図り、同じ学びの姿を想定して授業評価を行うことができるようになり、評価の視点が定まった。	B	○作成してきた一覧表などのツールの改訂やより多くの教師による授業実践の蓄積。
教育活動の充実	地域や関係諸機関と連携した	○児童生徒と地域との交流、地域との連携を図った教育活動の実施	○地域の学校や地域社会、ボランティアとの交流、交流籍を活用した居住地校交流の推進	○交流及び共同学習や地域へ貢献する活動、地域型実習、地域の施設・機関での販売活動等に取り組む。	○オンラインや作品・動画を通じた交流の形で学校間交流を継続(小中)。交流籍を活用した居住地校交流は3割強。目標は5割。ボランティア登録者70名。延べ130名が活動に参加。 ○地域への貢献活動、地域型実習、地域での販売活動等を実施した。	B	○交流籍を活用した居住地校交流校への要望や保護者への啓発
導力・専門性の向上	特別支援教育に関する指	○人間性・専門性を高め、自信をもって特別支援学校職員の役割を果たす教職員	○「個別の教育支援計画」により、保護者と共通理解を図り、よりよい指導・支援をめざす。	○本校主催公開講座・OJTや校内研修会への積極的参加による専門性の向上 ○若手教員の育成	○中堅教員と若手教員とでOJT研修を継続して行い、若手教員の育成に資することができた。 ○専門家派遣事業等を活用し、具体的な指導助言を受け、日々の実践に活用した。	B	○感染症の状況に対応した研修方法・形態等の模索
にとつて安全安心な学校	児童生徒・保護者・教職員	○人権尊重の教育の徹底 ○同僚性を培う。働き方改革の推進。	○健康な体と思いやりのある心を育てる。 ○業務内容の見直しと心身の健康を確保する。	○自他を大切にす、人間関係形成能力の育成 ○最終退校時刻の徹底。定時退庁日の設定(月2回)	○人権ポスター作成・Good Behavior カードの活用や自己理解・他者理解に焦点を当てた取組を実施した。 ○最終退庁は19時。会議時間1時間以内。	B	○児童生徒の人権に配慮した指導支援と保護者との共通理解に引き続き努める。

4段階評定(A:目標を十分に達成 B:ほぼ目標を達成 C:やや不十分 D:改善を要する)

来年度の重点取組(学校自己評価を踏まえた今後の方向性)

- 「主体的・対話的で深い学び」について引き続き研究に取り組む。(3年計画の3年目)
- 教育支援計画の活用等により、保護者との共通理解を図るとともに小中校の連携・教育の一貫性を高める。
- 地域との連携を図った教育活動を充実させる中で特別支援教育の専門性を高め、特別支援学校職員としての役割を果たしていく。